



一週一言

今議會の會期も餘すところ一週間となつた、中島商相が鳩山文相が相次いで辭職した現内閣の除命幾何もなしと見ての爲か豫算は原案丸呑みと云ふ見透しがつた、其れと同時に政黨では例の聯盟運動に新しい展開を見せてゐる、

其れは何故の聯盟でもなく政黨を目標としての運動であるのだらうが、假りに現内閣が倒れても政黨に於ける連帯が崩れるのは氣の毒である、哀れ無力なる政黨の現狀は誰が招いた運命でもない政黨が自身を求めた悲惨なのだ、

云ひたくはないが政黨政治には幾多の罪惡史を残したのみで國民に得る所が甚だ少なかつた、眼中國家なく、黨利黨略に腐心して政權争奪を繰返し、公然と行はれる賄賂政策、國民から見かざられるのも當然たる終末と云ひやう、

政黨政治の信望回復は政黨それ自らの覺醒が必要であり國民もまた政黨に對しての過去を呪ふよりも選挙と云ふものに投票と云ふものに延ては政黨と云ふものに深き考慮を置いて向後に誤りなきを期したいものである、微力な様でも吾々個人の正しい遂行は總て偉大な力がある吾れ等には此の際それに一舉したく思は

休日 日曜 祭日  
一月 日 二五 二五  
二月 日 二五 二五  
三月 日 二五 二五  
四月 日 二五 二五  
五月 日 二五 二五  
六月 日 二五 二五  
七月 日 二五 二五  
八月 日 二五 二五  
九月 日 二五 二五  
十月 日 二五 二五  
十一月 日 二五 二五  
十二月 日 二五 二五

平町地下採掘問題

博士に説明を受ける  
鑛區出願に反對を續けてゐる  
向後の成行に一般の注目

平町では同町地下の石炭鑛區であるが關係當局では之れを對する鑛區出願の件で技術的に根柢なきものとして台鑛山監督局から再諮問に接するの途へ來る二十五日地質學の權威者博士が早大研究を同伴來平されるので同博士から詳細な説明を請ふ模様がどう決まるか町民一般に於ける幾多の事實によるもの

櫻花期のおめかしに

着手される平公園  
古鍛冶北口の道路擴張工事に  
池橋の架換から松の手入

櫻花に誇る平町では公園費に千六百圓の豫算を置き電燈費に四百五十圓の歡迎費に四百圓等大きい支出は櫻花期に要するもので今年草刈掃除の手入れの外に園内の松三百八十二本の内二百本に對して植えてから此の方お構ひなかつたものに初めて植木職の手を入れ臨時費に計上される七百十七圓で古鍛冶町踏切脇の公園北口の道路擴張(延長廿四間池の端まで幅員十尺を廿一尺に)に五百四十八圓、辨天堂脇のハツ橋の橋板張替及び高欄設置に百圓余その他何

平町會

二十三日に招集  
平町會が本月末頃招集されやうとは既報したが來る二十三日午後一時招集に決した議案は更正豫算その他であると

織田家から五十圓寄付

平町町織田豊太郎氏は今十

座講識常  
インタビューは面會  
應接、會見の意で新聞  
雜誌記者等の面會に用  
ひられる、名士を列車  
に訪ひ或は他の會見  
記を發表する時、誰氏  
を何處に迎訪インタ  
ビューを申込等と云ふ

平第一卒業生の見學

九日亡父寅松さんの遺志により小學校基本財産の内へ金五十圓の寄付を申出た

平第一小學校では今十九日午前六時及び高二の卒業生百六十名を上川訓練所外二教員の引率で郵便局並に平町常盤銀行支店を見學したが同行に於ける山吹色の甘藷、十圓、五圓金貨を物珍らしく、いいて見たり大金庫前に積む五十圓銀貨五百圓の一袋一貫三百二十圓及び一錢銅貨五十圓人の袋正味五貫目を手んで持ち上げて無邪氣な笑ひを交はし公債證書の見本などを見て歸校した

内郷村御代境の山火事

石城郡内郷村の得台境宇鬼越地内雜木林から昨十八日午前十一時頃山火起したのを間もなく発見した隣接好間消防組四十名がかけつけ消火に盡して三段五畝歩を焼いて消止めたが同山林は芝地が多く損害十五圓位原因は目下取調中である

お嫁が嫌で家出する

東京へ行く處を平若に押へらる  
相馬郡中村町中野はるの娘當時同郡福田村字別所居住佐藤としみ(二七)は今十九日病叔

母の貯蓄金及び自分の持金の取調べにより従兄との縁談を合せて二十八圓を懐中なし無縁家出上り列車で上野へ向いたのを家人に氣づかれ平若に取押へ方を託されて午前十一時の列車から途中下車同署

前橋市の視察團體

百五十名普通列車で今夕來平  
復活して各旅館の歡び

前橋市の視察團二百余名の來平は同市に於ける機業界の恐慌來で平町各旅館その他の熱誠な歡迎準備を要切り中止されることを後藤平澤長が面會問題だと前橋市長に強硬な掛け合ひをつけて二等列車から普通列車に換えた同視察團は五十名を減じて百五十名今十九日午後六時二十二分發越東線で平若の筈であるが一行を迎へる平町では直ちに平館に招いて藝妓の郷土藝術を紹介したる後指定旅館に案内する翌二十日は午前七時で同町出發後及び湯本に分れて炭鑛視察の後茨城縣助川に下車日山鑛立を見學歸前すると

磐城高女の卒業生

百八十四名  
磐城高等女學校では昨十八日第二十二回卒業式を舉げたが今回卒業生は百八十四名で卒業後の志望は家事一四四名進

玉川村の聲明書

玉川村長  
一、石城郡玉川村は四百八十町歩、畑二百町歩を有する純農村でありまして村内を貫流する藤原川に萬年堰、袋堰、島堰、宮岡堰の四ヶ所の堰を築き二百四十町七段一畝八歩の水田に

の取調べにより従兄との縁談を嫌ひ東京婦人會館が就職の世話をすると云ふ新聞廣告を頼りに出かけたものと判つたが午後三時家人の迎ひに引渡された

- 藤原菊枝  
加藤美恵子 上遠野英子  
金子トシ 上川松子 加茂秀子 川崎みな 川島セツ 川島マサ 菊地ユキエ 木田トミ子 木村富子  
草野信子 草野富士 藤岡トシ子 藤岡禮津子 熊坂妙 栗田幸江 郡司榮子 小泉郁子 小岩トシエ 後藤静枝 木幡道子  
小林榮 國府田ミキ 小松タツ 小松チヨ子 小淡千代子 今内美智 齋藤菊 齋藤きみ 酒井りん  
坂本孝子 坂本ヨカ子 山本サタ子 山本富美 佐々木キミ 佐藤昌 佐藤榮子 佐藤シヅエ 佐藤フク子 佐原カネ子  
四家和子 柴崎雪江 島田榮子 白井ハマ 白井美江子 白土喜恵 菅原美代 菅波チイ 鈴木綾子 鈴木キミ 鈴木サタ 鈴木たか 鈴木登貴 鈴木とし 鈴木秀子 鈴木ミチ 上原枝 江尻キヨ 江上環 遠藤サタ 遠藤トシ 遠藤榮子 大井川八重 大川節子 大河原トシ 大木隆子 大須賀トキエ 大塚澄子 大塚禮子 大平品子 大森武子 大和田富美子 大和田フヂ子 小倉納文子 小倉合と 小野キミヨ 小野野枝 小野サチ夫 智澤志津枝 藤原を致して居ります、  
二、藤原川流水に炭鑛の排水が混入する様になりまして、殊に最近排水は下流が皆赤く糞糞をなした結實期には他の稻は自然に黄金色を帯びて居りますが藤原川流域の稻は少しの霜又は西風が吹くと一晩でガサッと白葉化して稲首が

樹から落ちた命

石城郡飯野村の北白土農加藤清作(五七)は昨十八日午前九時頃同地字西の内村山(山名)外四名と村内上荒川草草地内山林で下枝刈に從事中高さ三尺餘の樹上から墜落昏倒したのを直ちに緊急手当を加へたが蘇生するに至らず平若の檢視を受けたが同人は今から八年前に神經痛を患ひ右足の自由を缺いてゐたもので死の原因は樹上で心臓麻痺を起したものと見られる

折れ突立つて仕舞ふのであります、故に米質は粗悪となり葉も極めて悪質となりて稲細工等には用ひられないのであります、加之畦畔に植付られた大豆は糞糞は發育しますが實は一粒も結實しません、土壌は少しの旱天にも鹽が淡雪でも降つた様に眞白になり年々荒

三、去る二月二十六日夕刻原川の水は恰も炭灰と油とが混入した様で濁水と變りまして役場書記に命じ調査せよと云ふが調査の結果は所よりの排水であることが確實となつたので、

